

APSA 第 11 回大会開催!

—大会報告—

11th International Congress of APSA was held! -Congress Report-

text_matsumoto

9月19日(月)から21日(水)までの3日間、APSA(アジア都市計画系学部連合)の第11回大会が東京大学で開催されました。テーマは「アジア諸都市における将来の持続可能な再生に向けたリ・プランニングについて」西村先生をチェアマンとして行われた今大会、都市デザイン研究室メンバーもスタッフとして奮闘しました!最終日のシンポジウムを中心に、大会の様子をお届けします。

APSA 第 11 回大会プログラム

	19 Sep.	20 Sep.	21 Sep.
AM	<p>受付で活躍中のデザ研メンバー</p>  <p>開会式・安藤忠雄氏特別講演</p> 	<p>論文発表</p>  <p>▲賑わう工2号館フォーラム</p>  <p>ポスターセッションにも参加しました</p>	<p>論文発表</p> <p>シンポジウム</p> <p>閉会式・松浦晃一郎氏特別講演</p> 
PM	<p>▲本郷の歴史についてプレゼン中の黒瀬助教</p>  <p>▲講演中の安藤忠雄氏</p>	<p>論文発表</p>  <p>ワークショップ</p> 	<p>▲(左)ユネスコ前事務局長を務めた松浦氏 (右)聴衆でいっぱい福武ホール</p>  <p>次回チェアマンにバトンタッチ</p> 

シンポジウム

「大災害後における復興および防災計画について」

最終日のシンポジウムでは、5人のパネリストによる熱い議論が交わされました。その一部をご紹介します。



Principles of Recovery of the Disaster 震災復興の原則

イリノイ大学 ロバート・オルシャンスキー 教授
Post-disaster reconstruction is very different from normal urban development. The characteristic that distinguishes post-disaster conditions from normal time is "time compression". The post-disaster environment consists of a compression of activities in time and focused in space. In post-disaster conditions, it has always been the question that "speed vs deliberate". However, the real question is "how to deliberate the plan faster so as to achieve as much improvement as possible".

▲シンポジウムでの質疑応答

プロジェクト報告

現地調査、続々！

Field works in each place!

短い夏休みも終わり、各PJの活動も再び動き出しました。今回は高山・足助で行われた現地調査および、神楽坂での勉強会の報告です！

高山 TAKAYAMA-project プロジェクト

M1 安東 政晃



▲調査結果を「万雑」にて発表



▲一色惣則集落の田園風景

9月15日(木)~18日(日)に第2回現地調査に行ってきました。高山の山間地ではすでに秋の収穫期を迎え、黄金色の田園風景が壮観です。昨年からの活動を続けている一色惣則集落では、これまでの活動を踏まえ、民宿のご主人と農業インターンシップを実施すべく動き出したところです。また今年度から新たな対象地となった長倉集落では、年2回の「万雑」の場をお借りし、前回の調査結果を含めたPJの活動を住民の方々に報告しました。長倉のみなさんは長倉を愛し、それ故に過疎化、高齢化に対する危機感も大きく「ともに頑張っていこう」と我々を迎えてくれました。山間の絶景、美味しい野菜、人の温かさ。他にも都会には無い豊かさをたくさん備えている、そんな長倉の魅力を発信していくことがまず必要かと考えています。

足助 ASUKE-project プロジェクト

text_ishii



▲商店の方々の優しさに触れる



▲スーパーで地産地消コーナー発見

もうすぐ香嵐渓が紅葉のシーズンをむかえる足助ですが、今回の現地調査では足助の地産地消の動きを足助内の商店から調べようという目的で、商店に対してのアンケート調査を行いました。夏の暑さが残る中、メンバーは汗をかきかき、塩の道をてくてくと歩きながら、ただ一心不乱にアンケートへのご協力をお願いしに各商店へと向かいました。アンケート結果の集計を行い、地産地消の匂いを醸し出している商店へは翌日にヒアリング調査もさせていただきました。顔を真っ赤にしながら活動したかいがあり(?)、周辺の農家との関係や食材の調達先などとても興味深いお話を伺うことができたため、収穫のある調査となりました。足助PJに一足先に実りの秋が到来です。

神楽坂 KAGURAZAKA-project プロジェクト

M1 仲村 貴文



▲現在のまちの様子



▲戦前の神楽坂の様子

9月20日(火)に、神楽坂で登録文化財に関する勉強会が行われました。今回は、建物保存活用の活動をされている建築家の伊郷吉信氏をお招きし『建物の見方』というテーマでお話を伺いました。昨年からの勉強会ですが、参加される方々の関心も非常に高く、今年はより踏み込んだ内容となりました。『人(じん)(どんな人が)・時(とき)(どういう時代に)・場(ば)(どんな環境で)・金(きん)(いくら金をかけて住んでいたのか)』に着目した建築の見方を紹介して頂き、屋根材やタイル、開口部などから見る建築年代の違いなど、注意して見ないと気付かないような意匠の特徴を知ることができました。神楽坂チームが発表する10月のシンポジウムや勉強会でのWSなど、今後の活動に繋がる充実した勉強会となりました。

祝！最優秀賞 GSDW 体験記

M1 浅野が参加した
WSの体験記です！

M1 浅野 純子



▲50個の模型を作りました



▲小野寺康先生によるエスキス中

9月2日(金)~10日(土)の9日間、GSDW(グラウンドスケープデザインワークショップ)に参加してきました。これは、建築・土木・都市系の学生が分野を超えて議論することを目的としたWSです。今年は茨城県牛久市を対象に郊外におけるデザインの可能性を考えました。参加者40名が4人ずつ合計10グループに分かれ、毎日朝8時から終電まで議論を続けました。私の班は建：土：都=1：2：1で、分野の違いから生まれる認識や理想の相違に苦戦しましたが、最終講評(篠原修先生、内藤廣先生を始めとして講師陣が豪華!)では私達の提案「まちのぶどう畑」が最優秀賞を獲得しました。期間中自分の未熟さに打ちのめされ続けましたが、「分野を超えたときに見える風景」を垣間見ることができた気がします。

9月・10月の予定 Information

9月30日~10月2日	第34回全国町並みゼミ飛騨市大会
10月1日~14日	ルンビニPJ現地調査
10月8日~9日	足助まつり
10月9日~10日	高山「八幡祭」

★編集後記

19日から21日までの3日間、APSAの準備と運営に携わりました。受付という担当上、あまり会場を見て回る時間がなく残念でしたが、最終日のシンポジウムにはちゃっかり出席し、APSA閉幕の瞬間に立ち会うことができました。満足していたのもつかの間、福武ホールを出ると外は暴風雨。プチ打ち上げに参加しつつ、台風が過ぎ去るのを待って終電でとぼとぼ帰宅しました…。

松本 綾